

第 69 回日本寄生虫学会南日本支部大会  
第 66 回日本衛生動物学会南日本支部大会  
合同大会（2016）  
プログラム・講演要旨



会 期： 2016 年 11 月 5 日（土）－11 月 6 日（日）  
会 場： 佐賀大学医学部（鍋島キャンパス）看護学科棟 1 階 講  
義室 1  
大 会 長： 吉田 裕樹  
大会事務局： 佐賀大学医学部分子生命科学講座免疫学分野 内  
〒849-8501 佐賀市鍋島 5-1-1  
TEL: 0952-34-2294  
FAX: 0952-34-2062  
e-mail: yoshidah@med.saga-u.ac.jp

## ご案内

1. 受付：2016年11月5日(土) 12時00分より 看護学科棟 1F ロビー
2. 会費：当日受付にてお支払いください。  
参加費：一般 2,000 円、学生無料  
懇親会費：一般 3,000 円、学生 2,000 円
3. 発表：口頭発表のみ。発表 10 分、質疑応答 5 分を予定しています。
4. 発表データ：当日、会場にて受付いたします。Microsoft PowerPoint で作成してください。  
各自、必ず事前の動作確認をお願いします。  
当日使用のコンピュータは、  
Windows [OS が Windows 8、ソフトは Microsoft PowerPoint 2013]  
Mac [OS X、ソフトは Microsoft PowerPoint 2011] です。
5. 評議員会・運営委員会：2016年11月5日(土) 12時00分～13時00分  
佐賀大学医学部(鍋島キャンパス)看護学科棟 2 階 講義室 2
6. 会場への行き方 (佐賀大学医学部(鍋島キャンパス)看護学科棟 1 階 講義室 1)  
○博多駅(JR)⇒佐賀駅(JR)  
在来線特急、“かもめ” もしくは“みどり”にご乗車ください。  
  
○西鉄天神高速バスターミナル⇒佐賀駅バスセンター  
福岡ー佐賀(わかくす号)にご乗車ください。  
  
○佐賀駅(JR)からはバスが便利です。佐賀駅バスセンターは近接です。  
佐賀駅バスセンター2 番乗り場で“佐賀大学病院行”にお乗りください。  
約 20 分です。終点のバス停 (佐賀大学病院) で降りていただき、徒歩 2 分です。  
  
車でお越しの場合は、外来駐車場に駐車できます。一回(一日)100 円です。当日佐賀大学スタッフにお尋ねください。

\*地図は次ページにあります。



7. 懇親会：2016年11月5日(土) 18時40分より

場所：えくぼ家(佐賀駅より徒歩1分)

<http://tabelog.com/saga/A4101/A410101/41001486/>

(当日 佐賀大学病院バス停、18:17 発の市営バスにご案内いたします。

佐賀駅北口バス停で下車 (280 円)。バスで約 20 分の距離です)



第 69 回日本寄生虫学会南日本支部大会・第 66 回日本衛生動物学会南日本支部大会  
合同大会（2016）

第 1 日目

13:00-13:10	開会の挨拶	吉田 裕樹	
13:10-14:10	<b>セッション 1</b>		<b>座長 丸山 治彦（宮崎大学）</b>
14:10-14:30	休憩		
14:30-15:30	<b>セッション 2</b>		<b>座長 木村 大輔（長崎大学）</b>
15:30-15:50	休憩		
15:50-16:30	<b>セッション 3</b>		<b>座長 吉田 彩子（宮崎大学）</b>
16:30-16:45	休憩		
16:45-17:30	<b>特別講演</b>	<b>由井 克之 教授</b>	<b>（長崎大・院医歯薬・免疫）</b>
	<b>「マラリア原虫感染により誘導されるユニークな IL-27 産生 Foxp3-制御性 T 細胞」</b>		
		<b>座長 吉田 裕樹</b>	<b>（佐賀大学）</b>

第 2 日目

9:00-9:10	連絡事項	吉田 裕樹	
9:10-10:10	<b>セッション 4</b>		<b>座長 田仲 哲也（鹿児島大学）</b>
10:10-10:30	休憩		
10:30-11:30	<b>セッション 5</b>		<b>座長 三宅 靖延（佐賀大学）</b>
11:30-11:40	休憩		
11:40-12:10	総会		
12:10-12:15	閉会の挨拶	吉田 裕樹	

11月5日(土)

13:00-13:10 開会の挨拶 吉田 裕樹

---

13:10-14:10 セッション1 座長 丸山 治彦(宮崎大学)

13:10- ポリビアにおける慢性シャーガス病小児患者のベンズニダゾール治療の副作用と診断 PCR によるフォローアップ

○望月 恒太<sup>1</sup>、ヴァスケス クララ<sup>1</sup>、水上 修作<sup>2</sup>、グエン ティエン フイ<sup>2</sup>、平山 謙二<sup>1</sup>

1:長崎大学熱帯医学研究所 免疫遺伝学分野、2:長崎大学熱帯医学研究所 臨床開発学分野

13:30- **Development of Luciferase Immunoprecipitation Systems (LIPS) for serodiagnosis of Toxoplasmosis**

○Khin Myo Aye<sup>1</sup>, Minami Baba<sup>2</sup>, Eiji Nagayasu<sup>1</sup>, Ayako Yoshida<sup>1,3</sup>, Yasuhiro Takashima<sup>2</sup> and Haruhiko Maruyama<sup>1</sup>

1:Division of Parasitology, Department of Infectious Diseases, Faculty of Medicine, University of Miyazaki; 2:Department of Veterinary Parasitology, Faculty of Applied Biological Science, Gifu University; 3:Laboratory of Veterinary Parasitic Diseases, Graduate School of Medicine and Veterinary Medicine, University of Miyazaki

13:50- 胃アニサキス症の病態形成機構の解明

○伊藤 秀幸<sup>1</sup>、飛弾野 真也<sup>1</sup>、白神 浩平<sup>1</sup>、水上 一弘<sup>2</sup>、神山 長慶<sup>1</sup>、村上 和成<sup>2</sup>、小林 隆志<sup>1</sup>

<sup>1</sup>大分大学・医学部・感染予防医学、<sup>2</sup>大分大学・医学部・消化器内科学

---

14:30-15:30 セッション2 座長 木村 大輔(長崎大学)

14:30- *Schistosoma haematobium* and hookworm infections in Kwale south coast Kenya: intensity and associated risk factors among schoolchildren

○ Evans Asena Chadeka<sup>1, 2</sup>, Sachiyo Nagi<sup>2</sup>, Toshihiko Sunahara<sup>3</sup>, Ngetich B. Cheruiyot<sup>4</sup>, Sammy M. Njenga<sup>5</sup>, Shinjiro Hamano<sup>1,2</sup>

1:Leading program, Graduate school of Biomedical Sciences, Nagasaki University, Japan; 2:Department of Parasitology, Institute of Tropical Medicine (NEKKEN), Nagasaki University, Japan; 3:Department of Vector Ecology and Environment, Institute of Tropical Medicine (NEKKEN), Nagasaki University, Japan; 4:Nagasaki University, Kenya Research Station, NUITM-KEMRI Project, Nairobi, Kenya; 5:Eastern and Southern Africa Centre of International Parasite Control (ESACIPAC), Kenya Medical Research Institute (KEMRI), Nairobi, Kenya.

14:50- **マンソン住血吸虫の先行感染がマラリア肝臓ステージに及ぼす影響**

○森保 妙子<sup>1</sup>、中村 梨沙<sup>1</sup>、Richard Culleton<sup>2</sup>、濱野 真二郎<sup>1</sup>

1:長崎大学・熱帯医学研究所・寄生虫学分野、2:長崎大学・熱帯医学研究所・マラリア室、3:長崎大学医歯薬学総合研究科

15:10- **A retrospective study on efficacy and safety of albendazole for larva migrans syndrome caused by ascarid nematodes in Japan**

○Amy Hombu, Ayako Yoshida, Eiji Nagayasu, Mika Kuroki, Haruhiko Maruyama, Division of Parasitology, Department of Infectious Diseases, Faculty of Medicine, University of Miyazaki

---

15:50-16:30

**セッション 3**

**座長 吉田 彩子 (宮崎大学)**

15:50- **マダニ胚由来細胞における遺伝子発現ベクターの検証**

○井戸 明子<sup>1</sup>、正谷 達膳<sup>2</sup>、好井 健太郎<sup>3</sup>、Remil L. Galay<sup>1</sup>、草木迫 浩大<sup>1</sup>、Melbourne R. Talactac<sup>1</sup>、Emmanuel P. Hernandez<sup>1</sup>、望月 雅美<sup>1</sup>、田仲 哲也<sup>1</sup>

1:鹿児島大学・共同獣医学部・感染症学分野、2:鹿児島大学・共同獣医学部・TAD センター、3:北海道大学・大学院獣医学研究科・公衆衛生学教室

16:10- **フタトゲチマダニヘモリン由来ディフェンシンの同定とその抗菌作用**



---

10:30-11:30

**セッション 5**

**座長 三宅 靖延 (佐賀大学)**

**10:30- Eimeria が関与する牛の出血性腸炎の病態形成機序へのアプローチ：発症例における腸管病原性微生物の混合感染状況の調査**

○平川 恵太<sup>1</sup>、桐野 有美<sup>2</sup>、土赤 忍<sup>3</sup>、目堅 博久<sup>2</sup>、野中 成晃<sup>1</sup>

1:宮崎大・獣医寄生虫病学、2:宮崎大・産業動物防疫リサーチセンター、3:東京農工大・国際家畜感染症防疫研究教育センター

**10:50- 赤痢アメーバ“シスト形成”分子機構の解明**

○見市 文香<sup>1</sup>、濱野 真二郎<sup>2</sup>、吉田 裕樹<sup>1</sup>

1:佐賀大・医学部・免疫学、2:長崎大学・熱帯医学研究所・寄生虫学分野

**11:10- マラリア原虫治癒後における IL-27 依存的免疫記憶の消失**

○木村 大輔<sup>1</sup>、都田 真奈<sup>1</sup>、Masoud Akbari<sup>1</sup>、木村 一美<sup>1</sup>、原 博満<sup>2</sup>、吉田 裕樹<sup>3</sup>、由井 克之<sup>1</sup>

1:長崎大・院医歯薬・免疫、2:鹿児島大・院医歯薬・免疫、3: 佐賀大・医学部・免疫学

---

11:40-12:10

**総会**

12:10-12:15

**閉会の挨拶 吉田 裕樹**